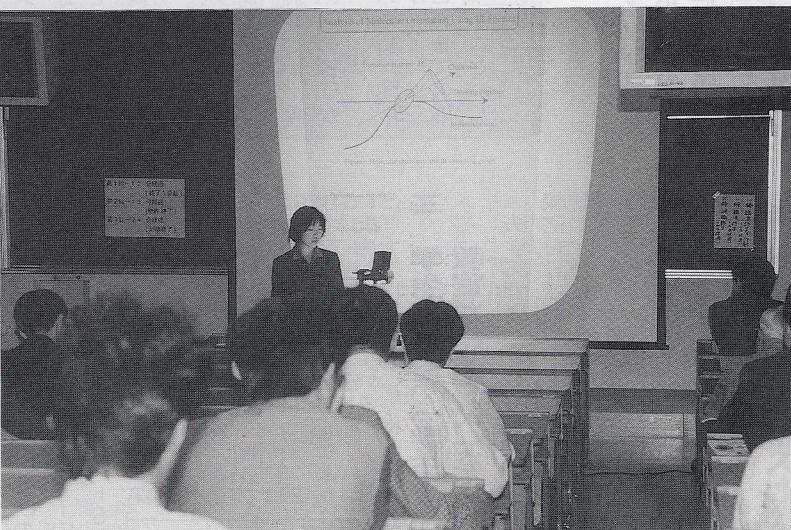


高分子討論会



研究発表。若手・女性の姿が多く、未来をめざす雰囲気がうかがわれる。

開かれる

未来のやさしい マテリアルを めざして

文・彦坂正道

Hikosaka, Masamichi

総合科学部物質生命科学コース教授

写真・高分子学会



懇親会のオープニング(西2食堂にて)。左に西条のお酒コーナー。
中央右より安田運営委員長(工), 筆者, 玉井先生(工)。

おさわがせしました

十月一日(火)朝。台風逃れの秋晴れ。すし詰めだつた広島からの電車から降りました。西条駅前も、バスにあぶれた人々でごったがえしていました。十時頃。工学部と総合科学部キャンパス一帯は、中でも総務事務棟玄関は、うろうろする人でごつたがえしていました。「私はどこへ行けばいいのでしょうか?」…時ならぬ、本職ならぬ「受付業務」に、わが庶務係の皆さんには大わらわ。皆さん、本当にすみませんでした。

高分子ってなに?

「ところで、高分子ってなに?」
聞き慣れない言葉かもしれませんね。でも、身の回りに溢れつつあるプラスチックス(ペットボトル、車のバンパー、テレビやパソコンの箱など)、皆さんのがアッショナルな服の織維、生体を作っている蛋白質や炭水化物など、おいしい食べ物、紙や木材、人工腎臓や人工心臓などの医療材料など、これらはほとんど全て、「高分子」からできているのです。高分子と呼ばれるのは、原子がたくさん繋がつて巨大分子になつていています。

こうした「古くて新しい物質」である高分子は、二十一世紀の世界で最も重要な課題、「自然との共生」に適した、やさしいマテリアルとして期待が強まっています。日本は、約十年前から(アメリカと並んで)この新しい分野をリードするようになってきています。広大の高分子研究も、世界に誇る独

創的な成果を上げています。このたびの高分子討論会も、広大の工、総科、理、教育の研究グループが中心になつて組織したことは言うまでもありません。今度の学会では、高分子をもつと優しく有用にするための、研究発表と討論が行われました。いろいろな原子を繋げて無限の新しい高分子を作る、鍊金術みたいな合成の研究から、高分子に特有な複雑で巧妙な階層構造の自己組織化のしくみやその性質を解明する、物理や化学や生物学による基礎的研究、そして、人工筋肉による義手や、高度な機能材料を開発するための応用的研究などなど。もちろん、ペットボトルに象徴されるリサイクル問題や生物に学ぶエネルギー問題の解決も重要で、活発な研究発表と討論がありました。こうしたためざましい結果は、広島で行つた記者会見でも注目されました。

活きくとした学会の開催。新しい科学と技術を世界に発信する広大の姿を、全国にアピールできたのもうれしいことでした。

(追記) 今まで全国規模の学会が増えると思いたい点を列記しておきます。
① OHPを全講義室に設置していただきたい。
② 中規模以上の講義室のマイク設備の拡充を特に、大講義室は質問者用のために、マイクを複数使えるようにしていただきたい。

「三千数百人も押し掛けたら大変だろうな。でも、JRバスもたくさん増発したし、立て看板もばっかり立てたし。これでよし」のはずだったのに、やつぱり大変でした。
「まさか、事務棟玄関前にタクシーで乗りつけるリッチな人が、あんなにたくさんいるとは思わなんだ」と言つても、後の祭り。忘れていたのです、玄関前の立て札を。こんな失敗もありました。